

令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立内中原小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

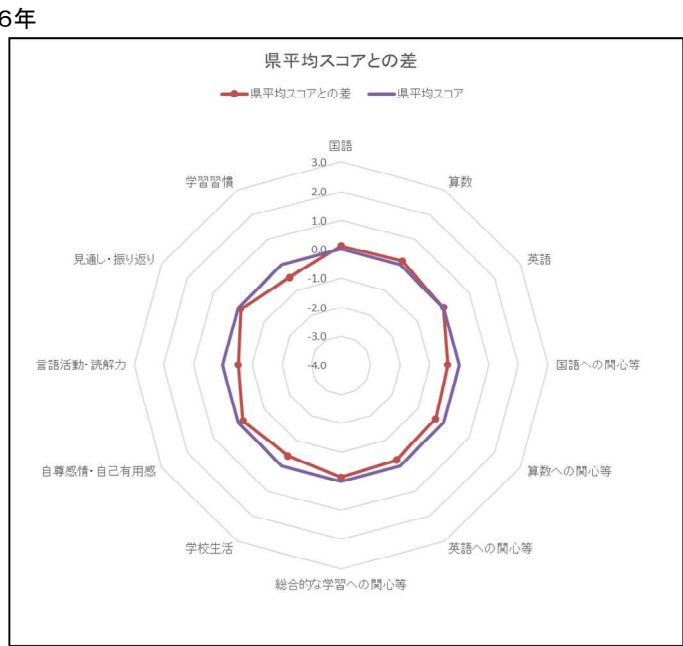
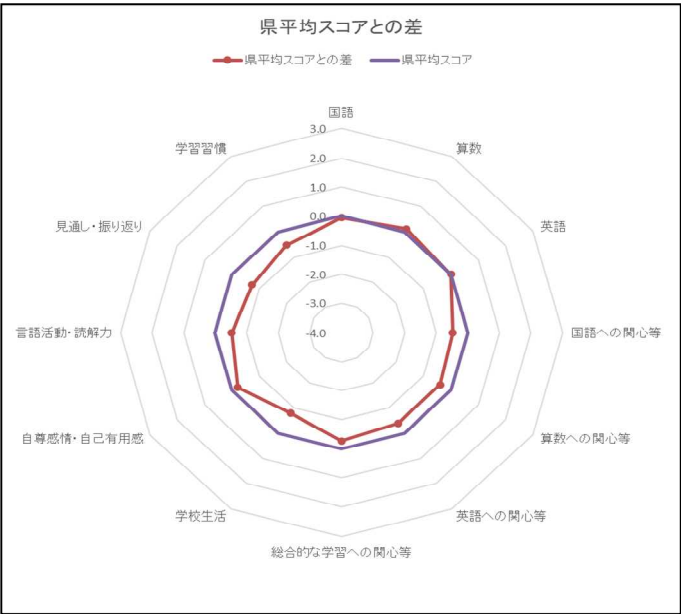
		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○優れた表現について自分の考えを書けている。 ○目的に応じた文章が書けている。 ●4年漢字の正答率が落ちる。 ●ローマ字のつづりが定着していない。	・漢字の定着、ローマ字の復習のため、ミニテストの様式、実施時間などを工夫する。 ・学校図書館活用教育を充実させ、読書への親しみを増すようにする。
	算数	○合同な三角形や体積を求める問題など、図形の問題はできている。 ○最小公倍数の問題の正答率が高かった。 ●小数のかけ算やわり算(整数×小数、小数×小数)の意味をとらえる問題ができていなかった。 ●異分母の分数の足し算引き算の計算技能(通分)が悪かった。	・「学年のまとめ」の学習の充実を図り、既習事項の理解を深める。 ・授業の中のまとめも大切にし、その時間にわかったことやわからなかったことをノート1ページ程度まとめる。続きを家庭学習でも行う。
6年	国語	○だいたいが平均よりちょっと上の結果となった。 ○読みとる能力が高い。 ●ローマ字のつづりが定着していない。 ●下学年で学習した漢字が定着していない。 ●書く能力が弱い。	・ローマ字への興味付けと反復練習をする。 ・該当学年だけでなく、全学年の漢字の復習をまとめてしていく。 ・卒業文集に合わせて、作文指導を重点的に行う。
	算数	○概ね県平均より良い結果となった。 ○量と測定の理解が良い。 ●記述式の問題がやや弱い。 ●小数の計算にミスが多い。 ●計算のきまりを使いきれていない。	・自分の考えを書く活動を意図的に設定する。 ・小数の加法・減法と乗法・除法の小数点の動き方の違いをおさえて練習する。 ・習熟のための練習量を増やす。 ・発展問題へのチャレンジも行う。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○国語・算数とも、よく分かると感じている子が多い。 ○算数で難しい問題にチャレンジする機会が多く、あきらめずに考えようとする子が多い。 ●国語や算数で自分の考えを伝えたり、話し方を工夫したりしている子が少ない。 ●国語や算数を好きだと感じている子が少ない。	・国語では、物語文への書き込み、個々の音読を充実させる。算数では、学習プリントなどを活用する。 ・わからないことを「わからない。」ということが出来る学びの場をつくる。友達のわからなさに寄り添って学び合える仲間づくりをする。
	家庭学習に関わる事項	○家で宿題をしている子が多い。 ●平日にテレビやDVD等の視聴時間が長い。 ●学校図書館の活用が十分でなく、読書を好む子も少ない。 ●予習・復習をしている子が少ない。	・家庭学習は一人でできる学習、学校は友達との考えと自分の考えを擦り合わせて行う学習(考える力・コミュニケーションの力を高めるもの)をすることを担任と児童で確認し、両輪となるような学習の進め方を心がける。 ・メディアとのより良い付き合い方などの指導を継続して行う。懇談等で家庭にも呼びかけするなど、家庭との連携を密にする。
6年	授業改善に関わる事項	○発表の機会がある、話し合い活動が授業でされていると感じている子が90%である。 ●活用問題への挑戦や他教科のつながりを感じている子が少ない。	・授業での話し合い活動を継続して行う。 ・活用問題などへの積極的なチャレンジを促す授業をする。
	家庭学習に関わる事項	○読書をしている子が増えた。 ○家庭学習の時間が増えた。 ○漢字の書き取りの力は定着している。	・自主学習の内容等の紹介を継続して行う。 ・自学の質の向上を目指す。 ・読書指導・図書館活用教育の継続をする。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	59	61
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生 97 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	53	62
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生 114 人

